

意見募集中  
H27.6.15まで

# みんなで作る とっとり市庁舎の考え方 概要版

市民ワークショップのようす

## はじめに

昨年12月、市役所本庁舎の位置を旧市立病院跡地に定める条例が、鳥取市議会において可決されました。これにより、事業の方向性が定まったことを受け、現在、新本庁舎の建設に向けた取り組みを進めています。

市役所本庁舎は、市民サービスはもとより、防災、まちづくりの拠点であり、市民が親しみとぬくもりを感じる場である、将来の鳥取市の発展を支える市民共有の資産です。

本市は、平成30年4月の中核市移行をめざした取り組みを進めているところであり、鳥取市のみにとどまらず、山陰東部圏域の発展のために必要となる機能や役割なども考えていかなければなりません。

この「みんなで作るとっとり市庁舎の考え方」は、

鳥取市のめざす新本庁舎のあり方について、広く市民のみなさんから寄せられるアイデア、市民ワークショップでの話し合い、新庁舎建設委員会の専門的見地からのご意見などを踏まえ、一つのたたき台としてまとめたいものです。

費用の抑制に最大限努めるとともに、市民のみなさんから寄せられるご意見を踏まえた計画内容としてまとめたいきます。

平成31年度の完成に向け、今後も引き続き、「市役所本庁舎は市民のものである」という原点に立ち、市民の安全、安心なくらしを支える拠点となるよう、市民のみなさんからご意見をいただきながら取り組みを進めていきます。

鳥取市長 深澤 義彦

# 鳥取市新本庁舎のめざす姿

## ① 総合防災拠点として安全性・信頼性の高い庁舎を実現します！

### 防災機能

鳥取市の総合防災拠点施設として、迅速かつ確実に対応できる機能等を備えた庁舎とします。

- ① 災害に強い構造
- ② 継続的な活動を支える設備
- ③ 常設の災害対策本部会議室
- ④ 備蓄倉庫・備蓄スペース
- ⑤ 災害時に多目的に活用できるスペース



▲写真：長岡市  
災害対策本部会議室

▼写真：千代田区  
多目的スペース



## ② 市民サービスの向上を実現します！

### 窓口機能、ユニバーサルデザイン、駐車場等

市民の満足度向上のため、便利で分かりやすいことを第一とします。

- ① 総合窓口（ワンストップサービス）の実現
- ② プライバシーに配慮した相談室・相談スペース
- ③ 誰もが使いやすい庁舎、わかりやすい案内表示
- ④ 利用しやすい来庁者用駐車場（約 200 台）

※ユニバーサルデザイン：すべての人が暮らしやすいように、まちづくり、ものづくり、環境づくりなどを行っていかこうとする考え方。



▲写真：松山市  
窓口スペース、案内表示

▼写真：千代田区  
相談スペース



## ③ 市民に開かれた、効率的、効果的な市政運営を進めます！

### 議会機能

市民に開かれ、議会機能が十分発揮される議会関連諸室とします。

### 事務空間

機能的で効率的な行政運営を実現する事務空間とします。

### 情報化、セキュリティ

今後更新される情報化にも対応できる柔軟性の高い計画とします。



▲写真：長岡市 議場

▼写真：青梅市 事務空間



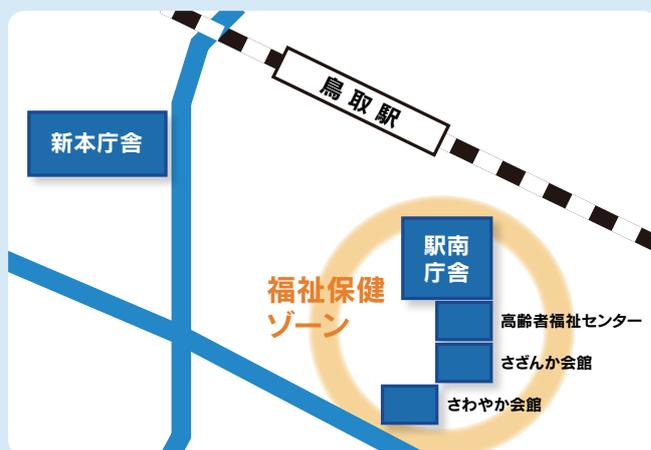
### 平成 30 年 4 月 鳥取市は「中核市」へ移行

鳥取市は、中核市への移行を目指し、現在、移行に向けた準備を進めています。中核市になると、保健所をはじめとする保健衛生、福祉、環境保全や都市計画、教育、文化の各分野で、県が担っている多くの事務や権限の移譲を受けます。このことにより、市は、特色あるまちづくりを進めることができ、市民サービスも向上します。

### 駅南庁舎は、保健・医療・環境衛生・子育て支援の総合拠点に

- ◆ 中核市になると新たに市の保健所を設置する必要があります。新たな保健所は、有識者の検討委員会の提言などを踏まえ、駅南庁舎（事務面積部分：約 6,100 平方メートル）を活用して整備します。
- ◆ 駅南庁舎は、保健所のほか、保健センターや子育て支援機能を配置し、保健医療、環境衛生、子育て支援の総合拠点として整備します。  
(駅南庁舎に配置予定だった本庁機能は、新本庁舎へ集約します。)

- ◆ 周辺のさざんか会館、高齢者福祉センター、さわやか会館とともに、福祉関連施設が集積する福祉保健ゾーンとして、機能の充実を図ります。



## ④ 市民交流、まちづくりに寄与します！

### 市民交流機能、外部空間

協働のまちづくりを促し、多様な交流を育むために、市民交流機能を充実させます。

- ① さまざまな活動に対応する市民交流スペース
- ② 飲食スペースと便利施設（ＡＴＭなど）
- ③ 情報発信スペース（コミュニティスタジオなど）
- ④ 市民の憩いの場となる屋外広場、親しまれる外観



▲写真：青梅市 市民交流スペース



▲写真：立川市 庁舎周辺の緑化

## ⑤ 長期的な視点に立ち、費用を抑制します！

### 庁舎維持、運用管理

長寿命化や省エネルギー化などの取り組みにより、ライフサイクルコスト（維持管理費などを含めた建物の生涯経費）の低減を図ります。

### 環境配慮

自然エネルギーの活用、エネルギーの有効利用、エネルギー負荷の低減など、環境との共生が図れる庁舎とします。



▲写真：出雲市 太陽光発電



▲写真：立川市 高強度の構造

- 日本一と言われるような防災庁舎を
- 鳥取市を象徴し、愛着の持てるデザイン
- 市民が利用できる食堂の設置を
- 市民が憩える多目的スペースを
- 市のPRスペースをつくり、イベントや行事をアピール
- 平面であるなど、使いやすい駐車場
- IT（情報技術）化に対応した庁舎
- 省エネ、自然エネルギー採用で環境に優しく
- 高齢者、障がい者まで使いやすい庁舎 など

いただいた  
ご意見の一部  
を紹介します



※みなさんからお寄せいただいたご意見やアイデア、市民ワークショップの話し合いの結果は、市公式ホームページなどでご覧いただくことができます。

## 平成 25 年 11 月の鳥取市庁舎整備全体構想（素案）策定以降の経過

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
建設単価 <b>34.1</b> 万円/㎡	● 資材や労務単価の増加（約 18% 増加） ● 消費税率の増加（5% → 10% へ増加）			建設単価 <b>40.5</b> 万円/㎡	
H25.11 素案作成	H26.5 地方自治法の改正 中核市への移行をめざす	H27.4 駅南庁舎(6,100㎡)は市保健所、 保健センター、子育て支援の総合拠点 として活用する方針（右ページ参照）			H30.4 中核市へ の移行

### 全体構想（素案） 庁舎面積：23,500㎡

庁舎名	職員数	用途
新本庁舎 17,400㎡	約 610 人	本庁機能を配置 (4 庁舎 → 2 庁舎)
駅南庁舎 6,100㎡	約 250 人	

中核市への移行（職員数の増加・市保健所の設置など）を見据えた市庁舎の考え方

庁舎名	職員数	用途
新本庁舎 23,000㎡	約 880 人	本庁機能を配置 (4 庁舎 → 1 庁舎)

※ 4 庁舎：現在の本庁舎・第 2 庁舎、駅南庁舎、福祉文化会館  
※ 各総合支所・環境下水道部庁舎は、現在の用途で使用

※ 駅南庁舎に配置予定だった本庁機能は新本庁舎へ集約  
※ 各総合支所・環境下水道部庁舎は、現在の用途で使用

市庁舎のめざす姿の実現、全体構想（素案）策定以降の経過を踏まえ、次のページのように考えました。

